

# 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○12月1日～

先週は米国の利下げに対する期待の高まりからドル／円は軟調、株価は上昇という動きになりました。利下げに積極的(ハト派の)ハセット国家経済会議委員長が次のFRBの議長候補として有力視されていることもドル安の要因となっています。

今月は日米ともに金融政策を決める会合があるため米国の利下げと日本の利上げの行方が相場に大きく影響を与えそうです。

米国の指標が悪いと利下げ期待からドルが売られ、株が上がるという動きが出やすくなっています。8月の雇用統計の悪化から利下げ期待が高まり、指標が悪いほど株価が上昇していくという奇妙な動きが続いています。

米国のFOMCが先で、その1週間後に日銀金融政策決定会合があります。

米国の利下げに注目が集まっていますが日本の利上げの可能性もあり、日本の利上げ確率が高まってくれれば円高ドル安、そして株安の動きを警戒しないといけません。

米国の利下げは今のところほとんど織り込み済み状態となっていますが、日本の利上げについては織り込み済みとなっていないことから、こちらの方がマーケットへのインパクトは強そうです。

さらに、AIバブルが崩壊しそうだという話もあり、株価の動きには注意がいります。

エヌビディアの株が11月に入ってから下落が続いている。

良い材料にも反応にくくなっているため米国株の上昇が終われば、リスク回避的な動きからドル売り、株売りが加速するリスクもあります。

先週は、株だけでなく、リスク資産の仮想通貨、ゴールド、シルバーも上昇しています。

シルバー(銀)はゴールド以上に上昇していくという話もあるので、貴金属の値動きも見てていきたいです。

そして、長期金利も見ておかないといけません。

日本の長期金利は再び上昇してきています。住宅ローンなども上がってきているため金利上昇が止まらない状況になってくれば日銀や政府も放置しておくことはできなくなってくるでしょう。

12月は大きく動くことも多いため乱高下に注意しながらリスク管理していきたいです。

ただし、今週は日米の金融政策がまだはっきりしないため上値も下値も試しにくく、行ったり来たりの方向感がわからない動きになるかもしれません。

クロス円はドル安相場になっているためドル／円が軟調な動きでも強い動きとなっているペアが多く、各通貨が円に対してだけでなく、ドルに対してどう動いているか確認してから取引するのが安全です。

- テクニカルで見た重要ポイントは？

## 今週の相場はどうなる？

### <ドル／円>

先週は週明けからじわじわと下落が進み、156 円台前半でマーケットが終わっています。

上値は重く、156 円台で停滞した動きが続きました。

まずは、157. 2円あたりの抵抗を超えるかどうかに注目したいです。

ここを超えると 21 日高値の 157. 8円あたりまで値を伸ばしそうです。

ただし、158 円を超えるには何か材料がない限り、難しそうです。

下値は155. 8円を割り込むと154円台後半あたりまで下げる可能性があります。

155–158円程度のレンジを意識しながらトレードしたいです。

### <気になるクロス円>

クロス円は強い動きになっているペアが多く、今週も強い動きが続くかどうかに注目したいです。

特にオセアニア通貨(豪ドル、NZドル)は利下げサイクルが終了したとの思惑からドルに対して上昇していく可能性が高まっています。

NZドル／円は週足でも大きく上昇し、7 月高値を超えてきたことから中長期的にも上昇していく可能性が出てきました。

南アフリカのランド／円も週足で上昇が続いているため強い動きが継続するか見ていきたいです。

ユーロ／円は高値圏で停滞した動きとなっているため反落に注意したいです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:○○／円というような通貨ペアのことです。

### <今週のファンダメンタル？>

日本では植田・日銀総裁発言などがあります。

米国では11月製造業PMI(改定値)、11月ISM製造業景況指数、11月ADP雇用統計、9月鉱工業生産、11月サービス部門・総合PMI(改定値)、11月ISM非製造業景況指数、前週分新規失業保険申請件数、12月ミシガン大学消費者信頼感指数、9月個人消費支出(PCEデフレーター)などの発表があります。

欧州では、ドイツとユーロ圏で11月製造業・サービス業PMI(改定値)、ドイツで10月製造業新規受注、ユーロ圏で11月消費者物価指数、10月卸売物価指数、10月小売売上高、7–9月期GDP(確定値)などがあります。

ほかには、オーストラリアで 7–9 月期GDP、カナダで 11 月失業率の発表などがあります。